



## 施設園芸技術指導士としての抱負

安部 常浩 三菱樹脂アグリドリーム(株)  
生産・技術部 植物工場グループ

私は2014年12月に、施設園芸技術指導士の資格を取得致しました。1984年に農業資材商社に入社し、この業界でお世話になり30年が経ちました。生産者をはじめ試験研究機関、農業資材業界の諸先輩方から多くのことを学びました。その証として、この資格を頂いたと心から感謝致しております。

現在、三菱樹脂アグリドリーム(株)で、植物工場システムの販売支援、海外での推進業務を行っています。植物工場は、将来を見据えた高度な最先端栽培システムだと思えます。農業以外の異業種分野の方々が果敢にチャレンジされており、今後も飛躍し更なる社会貢献ができる栽培システムと信じております。しかし、これらの技術は日本の施設園芸の歴史、日本の四季折々の気候風土に即した生産者の高度な施設栽培技術の蓄積とそれを支え発展してきた農業施設資材の技術の上に成り立っているということを、海外で推進すればするほど痛切に感じます。

弊社は2011年、中国で太陽光利用型植物工場(ナッパーランド、苗テラス)を推進すべく実証農場を建設しました。当時、私は工事責任者としてハウス建設、システム施工を担当しました。なるべく現地の部材で現地の人達で完成するため打合せを繰り返すのですが、現地のハウス業者の図面が、ずさんというより無いに等しい、すぐ錆びる部材、工期を意識しない工事班、あるはずの重油の暖房機がない、1台500Wの循環扇しかない、日本ではあたり前の施設機器がない、農業関連資材メーカーや販売店がない、腹立たしさと同時に、日本のハウス業者の責任感、完成度、施設機器の精度と豊富さが愛おしく、同時に植物工場は様々な資材メーカーの技術力によって支えられているんだと改めて思い知らされました。栽培でも、消費者の立場に立ってより良い物を作り、価値を認められ利益を上

げるといった意識は永遠に芽生えないんじゃないか、植物工場推進など100年先が良いのではないかと当時、真剣に悩みました。

しかし、そんな中国でも昨年7月には地元企業との合弁で、植物工場システム販売会社が設立され、今では3ヶ所約1.2haの植物工場が稼働し、生産物はスーパーで露地作物の3~4倍の価格で販売されるようになりました。今年7月には台湾にも実証農場を建設し、無農薬野菜のマーケティングが始まりました。更に、オーストラリアでは2年前から栽培試験を始め、「これほど安全で揃った綺麗な野菜はない」と評価を受け、三菱樹脂(株)が葉物野菜を生産販売する会社を7月に立ち上げました。

国内外で、特に男性はイチゴやトマトが儲かるから作りたいと言われます。しかし、家庭を守る主婦は安心できる葉物野菜が日々欲しいのです。これは万国共通ではないでしょうか。

日本は土も水も空もすべてが豊かで美しい環境が整っています。PM2.5問題を抱える中国など海外ではそのような環境が整っている場所は少なく、技術で補わなければならないのです。私は今後も日本の生産者や研究機関、農業資材業者に育まれた技術と経験を礎に自分の仕事が海外農業支援に役立つと信じ、太陽光利用型植物工場の推進に努めたいと思っています。



中国の弊社植物工場と  
同工場の生産物が陳列  
されたスーパーの様子